



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 42 号 2010.4.2 発行 社会政策研究所

つなぐちゃんベクトル臨時増刊 42 号を、4 月 2 日のこのイベントに引っ掛けて少しく
たくさん発行してしまいました・・・実現しました。【kobi】

4 月 2 日、東京青山の国連大学で開催された「世界自閉症啓発デー」日本国行事に参加
してきました。

平成 19 年 12 月 18 日の国連総会において、カタール国の提案で、毎年 4 月 2 日を「世界自閉症啓発デー」
(World Autism Awareness Day) とすることが決議され、世界各地において自閉症に関する啓発の取組みが行われています。

当日の詳細は、世界自閉症啓発デー日本実行委員会の公式サイトにすでにアップされています。ここでは、この会議に参加しての感想と新たに仕入れることができた情報をお伝えします。

http://www.worldautismawarenessday.jp/htdocs/index.php?action=pages_view_main&page_id=13



出張に出かけると出張報告書を作成することになっています。その中から感想部分ですが・・・ 今回のイベントに厚生労働省は多額の予算を提供し盛りだくさんの内容であった。300 名程度の参加者では非常にもったいないし、経年事業としての定着を期待したい。

国連大学ウ・タント国際会議場は、ゆったりとしたつくりで長時間の会議でも疲れを感じさせない机と椅子に感心した。

そもそも世界自閉症啓発デーそのものがカタール国の王室の提案で制定されたもの。AUTISM という言葉の訳が「自閉症」ではしっかり来ないものもある。もっと障害の特性を理解してその特性を活かそうというものである。

鼎談は、「マラソン」の主演の二宮和也さんの好演、「ぼくはうみがみたくなりました」の作品の質の良さに集中したが、最後に出演者で自閉症の人をこの現実に戻すダンス「3 匹の子豚」を全員で踊ったことにインパクトがあった。シンポ 1 は、出演者全員が仕事着（たとえば八百屋さんは八百屋さんのかっこうで）で登壇。視覚上のわかりやすさにも配慮があった。シンポ 2 は、自閉症の人の特性をソフトウェアテストという新しい仕事に結びつける実践で数々の賞をとっている㈱KAIEN の鈴木さんの仕事ぶりが光っていた。シンポ 3 は、理解あるジャーナリストとそうでない場合との差を愕然と感じた。まとめは、石井哲夫会長であったが、改めて「私たちの育ちを信じて、愛してと訴えられた。

式典部分では、内閣府の泉政務官のあいさつ中に、「障害が理解できない」障害者が行政担当者にいるという内容のものでした。確かに、切りやすいから、文句を言えないだろう

からと弱い立場の障害者の予算は、財政担当者によって早々とカットされてしまいます。こういう行政担当者には「障害未理解障害者手帳」を発行してもいいのかもしれないと、おもわず想像を膨らませて聞いてしまいました。

それと、三宅雪子衆議院議員の突然の発言です。弟さんが自閉症で一緒に住んでいる日常から、思わず話されたようです。このような体験を有しておられる国会議員さんには、実情にあった支援方策を積極的に進めたいと思います。

映画やドラマ作りのテーマで鼎談がありましたが、「君が教えてくれたこと」「マラソン」「ぼくはうみがみたくなりました」「星の国から孫ふたり」がそれぞれに語られました。

ともさかりえさん主演の「君が教えてくれたこと」は、もう10年も前のテレビドラマですが、いまだに議論が続くサイトが続けられています。

<http://www.tbs.co.jp/kimioshi/index-j.html>

また、二宮和也さん主演の「マラソン」は、二宮さんの役作りで「空気を見る演技」「雰囲気味わう演技」に注目させられました。多くの俳優は障害者を演じる際に役作りとして障害者のいる施設や事業所に出向き、行動を見てそれをまねするのですが、二宮さんは自分だったらとその姿をそしゃくしその結果、「空気を見る演技」「雰囲気味わう演技」にたどり着いたそうです。数々の賞をもらう俳優として一味違う姿に、単に人気があるからと言うことではない才能に気づかされました。

<http://www.tbs.co.jp/drama-marathon/>

さらに、今まさに注目作は「ぼくはうみがみたくなりました」です。

関西でも自主上映会がいくつかあります。ぜひ機会を見つけてみてください。4月2日には国会で上映会が行われています。従来の障害者を扱った映画には無い、同世代の恋愛感情が生き活きと描き出され、同じこの社会に生きる人としてのかかわりを考えさせられます。

<http://bokuumi.com/>

その後のシンポジウムも趣向を凝らせたものでした。

驚いたのは、新しい自閉症の人の職域として開発されたソフトウェアテストという業務です。(株)kaienは、そのための起業がなされた日本初の会社です。大いに期待したいところです。サイトの中にもありますが、鈴木慶太(すずき・けいた)代表取締役社長、共同創業者=経歴：NHK、経営コンサルティングファーム 学歴：東京大学経済学部 ケロッグ経営大学院 MBA、金子菜穂子(かねこ・なほこ)取締役人材開発担当=経歴：自治体での心理職、学歴：早稲田大学人間科学部、カーディフ大学公共衛生学修士、小崎元(おざき・はじめ)技術担当=経歴：三協ソフトウェア、日本総合研究所、TDK、医療情報技研、学歴：放送大学教養学部、青山学院大学大学院 MBA、徐勝徹(そ・すんちよる)取締役戦略担当、共同創業者=経歴：外資系コンサルティングファーム、国際赤十字、ユネスコ 学歴：早稲田大学政経学部 ミシガン大学公共政策学・修士 ケロッグ経営大学院 MBA といった人々により創業されました。

<http://www.kaien-lab.com/>

育ちを信じて！愛して！ このうち「信じて」はよく聞きますが、「愛して」は改めて聞くと、この日本社会の支援の困難状況を表す言葉だと実感しました。【kobi】

